佐藤嘲花（さとうてうくわ）歌人。明治二十年二月十五日宮城縣白石生れ、大正十一年六月五日歿（一八八七―一九二二）。本名章。明治三十三年福島縣立福島中學校入學。一級下にのちの英文學者齋藤勇（なけし）が居り、第二の高山樗牛と内々畏怖してゐたといふ。三十七年東北學院に入り、翌年同好と文藝雜誌『若草』を創刊。三十九年早稲田大學英文科に移るも、四十二年病を獲て退學。翌年頃から作歌を始め、四十四年前田夕暮の『詩歌』創刊に參加して有力な同人となる。白日社歌集第一集『發生』（前田夕暮編、大正四年三月二十五日白日社）に入詠。大正四年福島民友新聞社社會部記者となり、本紙に「短歌ゴシップ」を執筆、また「民友詩歌壇」選者となつた。大塚銀秋（五朗）、口語歌人清水信等指導した歌人も少くない。

遺歌集『常臥して』（前田夕暮編、大正十二年六月五日關根書店）の他、宮本織絵著『佐藤嘲花』（昭和二十九年十月十日福島・素巖社）には歌作一千餘首を附載。